

柴田高明

feat. 吉田剛士

クロニクル

マンドリン音楽の300年

——柴田高明による、緊張感と個性溢れる演奏にはいつも感服させられます。

ガートルード・ワイホーフェン

——彼の素晴らしい音楽性は、聴く者の心を惹きつけてやみません。

シュテフェン・トレッケル

new album 2011.2.11 on Sale

マンドリニスト柴田高明のニューアルバムは、全曲マンドリンのためのオリジナル作品、18世紀から現代までマンドリン音楽300年の歴史を通観するユニークな選曲。18世紀のオリジナル楽器と現代の2種類の楽器を使い分け、マンドリン音楽の魅力を多彩に表現。また“マリオネット”として活躍する吉田剛士との共演で、珍しいピリオド楽器による二重奏、そして吉田が柴田のために書いた新作の初録音も話題です。

●税込価格 2,625 円 (税抜 2,500 円)

●品番：WNCD-1003

●録音：2010年9月、滋賀・高島市ガリバーホール

●柴田高明コンサート会場での販売の他、全国有名楽器店、Amazon.co.jp、また下記ウッドノート・スタジオ HP にて販売



発売元：ウッドノート・スタジオ

<http://www.kyoto.zaq.ne.jp/woodnote/>

woodnote@kyoto.zaq.ne.jp



photo : Trevor Mogg

二重奏曲第1番ハ長調* (G.B. ゲルヴァジオ)

アリアと変奏第4番 (G. レオーネ)

じょんがら (桑原康雄)

アフォリスメン (M. シュトラウス)

ハックルベリー・ウォーク / 夢 / 舞曲

アイルランドのフォークソング / 瞑想

ミロンガ / 葬送行進曲

無伴奏マンドリンのためのソナタ (小林由直)

大前奏曲 (R. カラーチェ)

マンドリン 0.024ppm* (吉田剛士)

[*= 共演：吉田剛士]

柴田高明

ドイツ・カッセル音楽院器楽教育課程マンドリン科修了。第15回日本マンドリン独奏コンクール第2位、シュヴァインフルト市第2回国際マンドリン独奏コンクール第3位、ザールランド州第2回ヨーロッパ国際マンドリン独奏コンクール第1位に入賞(共にドイツ)。故桑原康雄氏主宰のアンサンブル・フィルムジカのヨーロッパ公演に同行し、ドイツ、スペインにて演奏。2001年には(株)現代ギター社よりギターの藤井敬吾氏との共演でCD『麗しき薔薇を知る者』を発売、好評を得る。ザールランド州弦楽オーケストラと協奏曲を共演するほか、カッセル、マンハイムの各国立歌劇場管弦楽団と共演。また、ソリストとしてフリードリッヒスハーフェン、バンベルクブルッフザール(ドイツ)、リオハ(スペイン)、神戸の各国際音楽祭に招待参加。現在はソロのマンドリン奏者として日本各地やヨーロッパにて演奏活動を行う傍ら、京都、大阪、東京、札幌などで教授活動も行なっている。また、マンドリン専門誌『奏でる！マンドリン』では「マンドリン研究室」を担当し、マンドリンの歴史などの記事を発表している。木下正紀、G.ワイホーフェン、S.トレッケルの各氏に師事。

<http://www.shibataka.com>

吉田剛士

15歳でマンドリンを始め、'80年～'84年、川口雅行氏に師事。'84年、渡西ドイツ。国立ヴッパータール音楽大学にてマーガ・ヴィルデン・ヒュスゲン女史に師事。'87年、同校演奏家資格試験を最高点で卒業、同年帰国。'88年、NHK洋楽オーディション合格。ポルトガルギター奏者・湯浅隆とのアコースティックユニット《マリオネット》として、従来のマンドリンの枠を超えた独自の境地を確立、計13枚のCDをリリースしている。また《マリオネット》の活動以外にクラシックマンドリン奏者としても高い評価を得ている。2006年には、100名のメンバーによる《マリオネット・マンドリンオーケストラ》を組織。新たなマンドリン音楽の確立に力を注いでいる。日本で唯一のマンドリン専門誌『奏でる！マンドリン』の監修も務める。